

# 日本の技術で出来ている 最新鋭のボーイング787

週刊新潮2013年3月21日号  
変見自在 高山正之  
日本は不滅

ボーイング787ドリームライナー(Boeing 787 Dreamliner)は、アメリカ合衆国のボーイング社が開発・製造する次世代中型ジェット旅客機。ボーイング757、ボーイング767およびボーイング777の一部の後継となる。中型機としては航続距離が長く、今までは大型機でないと飛行できなかった距離もボーイング787シリーズを使うことにより直行が可能になる。これにより、需要があまり多くなく大型機では採算ベースに乗りにくい長距離航空路線の開設も可能となった。



全日本空輸 2011年9月25日 受領  
日本航空 2012年3月25日 受領

米国の先進テクノロジーに陰りが出てきている。  
787は機体も軽量化され、足も長くなった。そんなスマートさのものは何かというと主翼、中央翼から胴体、車輪格納庫は三菱重工、富士重工、川崎重工製。  
タイヤはブリジストン製。  
電池はGSユアサ、エンジンは米国製だがそのシャフトはIHI製で、  
機体素材は東レの炭素繊維が使われ、  
音響はパナソニックが担当した。  
因みにトイレはTOTOのウォッシュレットが備わっている。

米ボーイング社は日本製のパーツを自分の工場に運び込んで、それを組み立てているだけになる。

ボーイングは米国製のコンピューターを使って設計した。どうもそれがよくなかったか。問題が次々に起きて第一発注者の全日空に納入されたのが約束の納期よりほぼ3年遅れ。おまけにフランスのタレス社から納入された配電システムが良くなって今年1月には日航、全日空の同型機が相次いでトラブルを起こし、米連邦航空局から不名誉な耐空性改善命令を出され運航禁止になった。